

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： マルチスケール・マルチアングルリモートセンシングデータの統合基盤の創成

2. 個人研究者名

堤田 成政（埼玉大学大学院理工学研究科 准教授）

3. 事後評価結果

本研究課題では、衛星画像とプロキシミティセンシングデータを利用し、深層学習等による土地被覆土地利用（LCLU）分類図の作成手法の開発に取り組んでおり、自然・都市空間の価値の定量化とともに気候変動や災害対応への貢献が期待できる。具体的には、位置情報を含む大量のプロキシミティセンシングデータから LCLU を推定する深層学習モデルを構築し、推論根拠の可視化に加えて、公開データを援用した Decision Fusion によるノイズ軽減にも成功している。また、プロキシミティセンシングデータの応用研究として、桜の開花フェノロジーを観測・地図化する技術を開発している。これらの研究成果は、広域的な LCLU 研究だけでなく、地域環境観測における貢献できるものであり、分類モデルの高精度化や広域展開などが期待される。